

事業の背景・目的

キレハオオクボシダは日本固有の着生シダ植物で、国内希少野生動植物に指定されている。秩父、伊豆、紀伊、八代に局所的に分布するが、個体数が著しく減少しており、一部の地域では絶滅したとされる。その一方で、栽培が極めて困難であり、生息域外保全は全く進んでいない。本事業では、大阪公立大学附属植物園で保有しているキレハオオクボシダを用いて、本種の生育に適した条件を検討し、栽培方法を確立させる。また、胞子の発芽条件と配偶体の培養条件も検討し、胞子を用いた繁殖方法を確立させる。さらに、野生個体のモニタリングならびに自生地周辺での新規集団の探索を行い、野生集団の現状を把握する。

事業の内容

事業① 栽培事業

- ・人工気象器を用いた栽培
- ・適切な栽培条件の検討



事業② 胞子を用いた繁殖事業

- ・胞子発芽条件と配偶体培養条件の検討
- ・生殖器官形成および受精の誘導



事業③ 野生集団の現況調査事業

- ・野生集団のモニタリング
- ・野生集団の探索



得られた成果

〔栽培事業〕

人工気象器を導入し、12月からキレハオオクボシダを用いて栽培条件の検討を開始した。保有株の維持については、予定通りに進んでいる。今後も栽培条件の検討を継続し、株の保持に努める。さらに、保有株の成長を定量的に評価し、栽培条件の検討をより詳細に行う。

〔胞子を用いた繁殖事業〕7月と2月に埼玉県秩父市で野生集団の調査を行ったが、胞子を確認できなかった。今後、秩父市の野生集団の生育状況を継続的に調査し、胞子の採取に努める。また、胞子を採取できた場合、シダ植物の胞子培養経験が豊富な研究者に協力してもらい、胞子を用いた繁殖事業に力を入れる。

〔野生集団の現況調査事業〕

奈良県川上村で6月と2月に野生集団の探索を行ったが発見できなかった。一方、7月と2月に埼玉県秩父市で野生集団の調査を行い、1地点で約20個体の生育を確認した。今後は、秩父市と川上村の他に自生が報告されている産地（例えば熊本県八代市）での調査も計画する。